フォーラムニュース　Vol.22　2021　2/10

発行：フォーラム･子どもたちの未来のために実行委員会

http://www.f-kodomotachinomirai.com/

文責／大竹永介

【特集】コロナの時代のフォーラムは？

私たちのフォーラムは「特定秘密保護法」への反対声明を機に、2014 年に発足しました。以来、表現の自由や、沖縄の状況などについて学習会を企画し、子どもの本に関わる者としてこれらの問題にどう向き合うかを考え合い、「安保法制」や「共謀罪」に対しては反対声明を出しました。しかし昨年来のコロナ禍で、リアルな学習会、シンポジウム等の活動ができなくなり、オンラインへの対応も不十分なままです。ゆるやかな連絡組織であるフォーラムとして、これからの時代に何をすべきか、何ができるのか、自問自答と模索を続けています。そこで今月は、フォーラムの活動についての皆さんのご意見やご感想を特集してみました。まずは児童作家でこれまでフォーラムの学習会にも何度か参加してくださっている梨屋アリエさん（写真）へのインタビューです。尚このインタビューはメールでのやり取りをご本人の了解のもとに編集部が再構成したものです。（編集部）

～梨屋アリエさんインタビュー～

未来のために種をまく・・・

＊学習会に参加していただいたり、フォーラムニュースを読んでいただいたりして、フォーラムについてはどんな印象を持たれていますか？

★私は興味のあるテーマの学習会に参加させていただいたくらいですから、あまりたいしたことはいえないのですが、超有名な作家さんとかベテランの方ばかりで、上の世代の出来上がった会、というかちょっと怖い（実際は怖くないんでしょうけど）イメージですね（笑）でも、参加した学習会はとても面白かったです。ただ、私が出席したものは参加者同士で意見を交換する時間がなくて、そこでだれかと知り合ったり新たな関係性や展開が生まれにくい感じだったのが残念でした。

＊確かに梨屋さんの世代から見ると、年寄りばかりでなんか敷居が高いな、という感じなのかもしれませんね。私たちの方からすれば、なかなか若い人が加わってくれないというか、若い世代に声が届かないというのがいつも悩みの種なのですが・・・。

★私もＹＡの読書会を主催していますが、若い人を集めるのは本当にどこも大変だと思います。すでにできあがっているように見える会に、下の世代があとから入っていくのはかなりハードルが高いみたいですね。自分では気にしてないのですが、年下の人には私がとても怖い人に見えるみたいです。若者ほど空気を読もうとするので、大人が思っている以上に、緊張しているのではないでしょうか。若い人ほど、自分に似た人が必要で、年上の人と一緒になにかしたいと思っていないのかもしれません。

＊それはテーマに対する無関心とは別の問題、ということですか？

★若い人にもいろんな層がありますが、まず、時間の余裕がないというのが一番の理由かと思います。自分のために時間を使うことができない現役世代がとても多いようです。学習会を限定で録画配信できたら、見たい人はいるかも知れません。

違う世代と一緒になにかできるとほんとに良いと思うのですが、上の世代が下の世代と一緒に活動するときと、下の世代が上の世代と一緒に活動するときの、気持ちの持ち方は違ってくるでしょうし、年上は年下にかなり気を遣うことになるけど、年下にはそれがわからず、逆に年上の人に妙に気を遣って、言ってもわからないと思っているみたいなところもあって…。

★上からの言葉と、下からの言葉では、同じようにしているつもりでも、どうしても違ってきますよね。はじめのころは、私もそのあいだで通訳をする人間が必要だと考えていたのですが、最近はむしろ「通訳」というよりは、下の世代は下の世代でその人たちの問題意識で集まって活動できるような、そういう空気をつくっておくことのほうが大事なのかな、と、考えるようになってきました。フォーラムができることは、人と人をつないで、問題意識を共有していく小さな基点をつくっていくことかなと思います。「種をまく仕事」でいいんだと思います。その意味からも、最初に申し上げた「参加者同士で意見を交換する時間がなかった」というのが残念だったのです。スクール形式の勉強会や質疑応答だけでなく、小グループになって参加者同士が名乗りあって発言できる時間をつくると、つながりが発生しやすくなると思います。いまはコロナでできませんが、web会議のZoomなどはグループワークができるので、使いなれると案外いいかもしれません。

＊私たちのフォーラムができたのは特定秘密保護法への反対声明がきっかけでした。目的の一つには何か問題が起きた時に抗議の声を上げられる場所づくりというような意味もあるのですが、そのあたりについてはいかがでしょうか？

★「抗議の声をあげられる場所づくり」というのはよくわかります。まとまって意見を表明することは必要だと思います。日本の政治がとんでもないことをしているのは事実だし、それに反対したり抗議したりするのも当たり前でやらなければなりません。

ただ、いつも反対ばかりしていると思われてしまうのは、得策ではないようにも思います。反対が先に立って、意見を聞いてもらえなくなるからです。反対した先に何があるのか、どういう暮らしをイメージしているのかを、世の中と共有していかなくてはならないんじゃないかって、思うのです。たぶんフォーラムのコアな世代の人には当たり前すぎることなのでしょうが、案外若い世代はわかっていないと思います。これこれこういう社会になってほしいから、そうしていくためにはこういうことが必要で、それで、この政策に反対しているのだな、って納得できた方がいいですよね。ただやみくもに反対しているのではなく。団体としての普段の活動がはっきりしなければ、意見表明をしても届きにくいような気がします。抗議の声を上げて、なにかの媒体にちらっと載って、それで終わりになってしまうのではもったいないです。

＊フォーラムの発信力の問題ですね。ほかに何かこれだけは言っておきたいというようなことはありますか？

★失礼を顧みず、率直に申し上げると、じつは私「フォーラム・子どもたちの未来のために」という名称に少し違和感があるのです。「子どもたちの未来のため」の活動でなくて「わたしたちの未来のため」の活動ではないかと思うんです。障害者運動で「私たちの事を私たち抜きで決めないで（Nothing About us without us）」 という有名な言葉があるんですが、自己を抜いた、他者だけの未来のことなんて、どうやってその人のためだって判断するのだろう、と思います。当事者の声を聞かずにそれが正しいと考えて正義の活動をしていることの危うさを感じてしまいました。子どものころ「あなたのため」「あなたの将来のため」といわれて散々な目にあってきた人って多いですよね。政治の誤りを糺すのも「（子どもたちの未来を考えている）自分たちの未来のため」です。

＊たくさんの宿題を頂いたような気がします。貴重なご意見をありがとうございました。

〔なしやありえ：1971 年生まれ。98 年「でりばりぃＡｇｅ」で講談社児童文学新人賞受賞。主な作品に「ココロ屋」、「きみの存在を意識する」（IBBY オナーリスト）など多数。法政大学非常勤講師、ＹＡ*cafe、日本ＹＡ作家クラブ世話人〕

★つづいてはフォーラムニュース読者の方からの声です。

●結成の原点へ：最近のフォーラムニュースの感想をいえば、フォーラム立ち上げ時期の方向性が希薄になり、拡散されてしまっているような印象がある。コロナの災禍がフォーラムの存在自体さえも弱めてしまったのだろうか。運動体として、旗幟鮮明に、政権と対峙していたはずのエネルギーが弱まり、外に向かっていたものが内向きに変わってしまっている。それは、コロナというこの災禍がいかに歴史的な変容を人々に及ぼしているかという証左かもしれない。

いや、コロナの所為ばかりとはいえまい。メディアの劣化もあり、森友にしろ、桜にしろ、学術会議にしろ、憲法改正にしろ、ことごとく中途半端に流され、消費され、深まっていかない。

そんないわば「二重苦」のなかでフォーラムはどうすべきか？　結局は本質的な部分で現政府や政治の在り方に対峙し批判し続けていくことしかないのではないか。繰り返しになるが、コロナ禍で見えなく（見えにくく）なっているだけで、この国の「戦前回帰」という危険な動きは全く変わっていない。その意味からも太平洋戦争突入前の雰囲気と現在の類似など現代の危機の核心をついたテーマによる学習会も期待したい。いずれにしても結成時の原点にもう一度立ちかえる時だろう。　（K.K.無職）

●平和と自由と：フォーラムニュースを通して、平和と自由の大切さを訴えるフォーラムの活動を知り多くのことを学ばせていただいております。特に「子どもたちの未来のために」という言葉に強く心惹かれるのは、父（編集部注「お菓子放浪記」の著者西村滋氏）が平和と子どもをテーマに書き続けた作家だったこと、そして私自身、次世代に少しでもましな社会を残さなければと思う年齢になったことが、大きな理由です。

今、新型コロナで社会が混乱し（これは行き当たりばったりの政府の政策の責任でもあります）まったく先の見えない状況ですが、そんな時だからこそしっかり目を開けて、未来を見据えないといけないですよね。混乱に乗じて、平和と自由を脅かすような流れにもっていかれては大変です。フォーラムにはこれからもぜひ、社会と政治のあり方に警鐘を鳴らす役割を担い続けていただきたいと思います。子どもたちのよりよい未来のために。（松本真樹　脚本家）

●柔らかな発信力を：いつも力と気持ちのこもったフォーラムニュースをありがとうございます。小手鞠るいさんの「子どもだましは大人にしか通じない」、角野栄子さんの「工夫」のお話、武田美穂さんのご自身のご家族のお話……みな、はっとさせられました。次世代に、自分が手渡されたものよりもよいものを渡したい、ということ以上に大切なことは、それほどないはず。でも、仲のいい友人にでも、そういった話をすると「まじめか！」などと言われたり、若い編集者に「政治的な発言はあまりしないほうがいいですよ」などと「忠告」されたり。そこでつい「むにゃむにゃ」と黙ってしまうのは、面倒な人、変わってる人って思われずに、意見が違った人と話し合える自信がないからかなと思います。フォーラムニュースには、「まじめか！」とつい反応してしまう人たちにも、「それはおもしろいね」「大切だね」と伝わる、柔らかな発信力に期待しております。　（Y.K.編集者）

●2月のフォーラムニュースです。●今月はフォーラムへの感想や批評を特集してみました。活動の報告の場であるニュースレターにふさわしくないと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、これからの活動の模索の一つとご理解いただければ幸いです●フォーラムへのご意見やご感想、ご希望などはいつでも歓迎です。f.kodomo.mirai@gmail.com　まで皆さんの声をおきかせください。●散歩で時々立ち寄る近所の公園で早咲きの梅を見ました。いつにも増して春の到来が待ち望まれるこの頃です。皆様どうぞご自愛の程。（大竹）